

## 第44回県労福協定時総会

（福祉はひとつ）



ちじるしく、2022年度の全国の消費者物価指数は、1981年度以来、41年ぶりの歴史的な上昇幅となった。物価上昇は今後も続く見込みで、昨年・今年的大幅な賃上げも追いつかないどころか、年金や健康保険料などの社会保障制度についても改悪が続けられ、ますます厳しさを増している状況である。

一方、ロシアによるウクライナ侵攻は一年を経過しても解決の糸口が見つからず、更なる長期化が懸念される。改めて、民主主義、平和や人権といった普遍的な価値観がいかに重要かを、一人ひとりが考えなくてはならない。

6月21日（水）新潟東映ホテルにおいて、県労福協第44回定時総会が開催され、会員団体・役職員の96名が参加した。

理事長挨拶の要旨。

『私たちを取り巻く環境は、激甚化・頻発化する自然災害をはじめ、生活に多大な影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症、そして浮き彫りとなった社会的セーフティネットの脆弱性や深刻化するさまざまな格差が、今なお社会に大きな痛みを与えている。』

私たち働く者・生活者の環境は、昨年来の物価高騰、とくに家庭で消費するモノやサービスの値動きはい

新潟県労福協は、本日の総会で、活動の基本である、勤労者が安心・安全に暮らせる生涯福祉社会の実現に向け、労働団体・労働者福祉事業団体等と連携し活動を推進することであり、労福協の理念である「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」をめざすとともに、県民の生活向上に向けた政策提言などの取り組みについて会員団体を中心として、行政や様々なNPO・市民活動団体との連携・共同を強化し、労働者自主福祉運動を力強く推進していく。

笑顔あふれる未来をつくるため、今こそ心をひとつに、分断から連帯の社会へ、支え合い・助け合いと共生の社会の実現に向け、誰一人取り残されることのない社会、一人ひとりが尊重される多様性を認め合う社会をめざし、連合新潟・新潟県労働金庫・こくみん共済coopなど会員団体と連携し、しっかりとした取り組みを行う。』

総会では、2022年度の事業報告、2023年度事業計画、2023年度収支予算報告を行い、事業計画の補足意見として、高見代議員（NPO法人フードバンクにいがた）から、「6月末に予定している、総会において、NPO法人フードバンクにいがたが、発展的に解散する予定である」ことの現状説明があった。今後は、解散の決定がなされれば、各地域におけるフードバンクとの連携強化を、地区労福協を中心に進めることを確認した。

第1号議案「2022年度の決算報告ならびに監査報告に関する件」、第2号議案第「役員改選に関する件」について、全て満場一致で承認された。

## 【新任役員】（敬称略）

専務理事 間 英輔 労福協  
理事 小熊 勇 交通労連  
理事 川崎 晃 新潟地区  
監事 玉木 豊 こくみん共済



## 【新任役員】（2023～2024年度）

理事長 牧野 茂夫 連合新潟  
副理事長 齋藤 敏明 労働金庫  
副理事長 小野塚 豊 こくみん共済  
専務理事 石本 伸二 JP労組  
理事 登坂 崇規 自治労  
理事 飛田 博之 UAゼンセン  
理事 山崎 雅彦 電機連合  
理事 藤田 隆則 情報労連  
理事 小林 俊夫 連合新潟  
理事 鶴巻 洋介 労働金庫  
理事 佐藤 浩 こくみん共済  
理事 眞田 守 退職者連合  
理事 中川 亨 ろうきん財団



理事 小林 佳代 県生協連  
 理事 川原 隆哲 ワーカーズ  
 理事 高見 優 ささえあい  
 理事 山際 輝久 新潟地区  
 理事 矢島 良彦 長岡地区  
 理事 笹井 智規 柏崎地区  
 監事 桑原 典子 連合新潟  
 監事 長谷川建雄 労働金庫

※ 太字は新任

特別講演会

「日本社会・経済・平和問題」

青木理氏（ジャーナリスト）と牧野理事長、齋藤副理事長、小野塚副理事長による対談形式での講演会。

青木氏発言の要旨

ほとんど議論のないままに防衛費増額と敵基地攻撃能力を認め、軍事費世界3位の軍事国家に踏み出すきっかけとなった国会の異常さを指摘、また少子化、労働人口激減の中

での難民入管法改正の矛盾、性的少数者の基本的人権すら守らないLGBT法案にも言及、政治力量の衰えを具体的に解説した。

一方、韓国ろうそく革命、「日本人は自分たちの力で民主主義を勝ち取ったものではない（故金大中氏談）」を例に、政権交代が起きない弊害、声を上げれば世の中が変わる成功体験、政権奪取の必要性を説いた。

自民党と公明党は4半世紀連立を組んでいる。まさに「自民・公明党」である。権力を奪うために野党が結集することは当然である。「立憲・共産党」のどこが悪いのか、考えるべきである。

また醜悪な笑みで解散風をもてあそびサミットを自身の選挙区で開催するなど岸田首相の節操の無さ、安倍政権以降の根腐れ政治を批判、防

衛、原発回帰など大儀を示してこそ選挙の必要を訴えた。

そして新潟も舞台となった拉致問題にも言及、2002年の日朝小泉金会談開催に尽力した田中均元外務審議官取材裏話、北朝鮮には国交回復正常化、戦後補償に繋げる大きな期待があつたことも披露した。

最後は「沖繩」にも言及、矛盾や犠牲はすべて「周辺部」に押し付け、甘い果実を喰いしやぶる「本土」の本性を冷静に語った。

